

平成 25 年 12 月 23 日

ニホンザルの検疫研修と沖縄における野外実習施設・自然の見学

(平成 25 年 12 月 11 日~15 日) 報告書

京都大学 霊長類研究所 生態保全分野

修士二年 江島俊

実施場所 沖縄こどもの国、琉球大学、瀬底研究施設、沖縄美ら海水族館、
比地大滝キャンプ場、環境省やんばる野生生物保護センターウフギー自然館

参加者 岡本宗裕教授 兼子明久 石上暁代 夏目尊好 (技術職員)

鈴木紗織 (D1) 江島俊 (M2)

報告者は 2013 年 12 月 11 日から 15 日にかけて、沖縄県沖縄市に位置する沖縄こどもの国動物園にて新たに導入されるニホンザル 8 頭の検疫研修を行った。また初日に寄生虫の駆虫薬 (イベルメクチン) を投与し、後日 3 日間にわたって排出された寄生虫を回収し、ヤクザルに寄生していた寄生虫の調査と、駆虫薬の効果を測定した。糞便中の寄生虫卵数についても駆虫薬投与前と投与後の EPG (Eggs per gram) を計測し、駆虫薬の効果を確認した。本研修によって得られた虫体サンプルからは DNA を抽出し、報告者の修士研究のデータに追加した。

また検疫研修目的以外にも、沖縄の滞在期間中に野外実習施設及び自然の見学を行った。12 日には琉球大学の理事・副学長である西田睦先生の研究室を訪問した。その際、西田先生からリュウキュウアユ (*Plecoglossus altivelis ryukyuensis*) が沖縄本島から姿を消した話を聞かされ、野生生物保全には、地域環境に根付いた研究者の意見発信が重要であることを実感した。

13 日には琉球大学の瀬底研究施設の見学、および沖縄美ら海水族館の見学を行った。瀬底研究施設では酒井一彦教授に施設を案内して頂いた。当施設は沖縄の生物多様性豊かな海へのアクセス性を活かし、サンゴ礁の生態、生物機能学の研究が活発であった。沖縄美ら海水族館では担当スタッフの方にバックヤード内部の設備も見せていただき、水族館運営の土台部分を知ることが出来たためこれも貴重な経験となった。

14 日には比地大滝キャンプ場の散策、および環境省やんばる野生生物保護センターウフギー自然館の見学を行った。比地大滝キャンプ場では自然の外観を損なわないよう遊歩道の設置に工夫が凝らされており、そのため沖縄固有亜種であるシリケンイモリなどの野生生物を身近で観察することが出来た。ウフギー自然館ではヤンバルクイナを中心とした沖縄固有種の詳しい解説や、交通事故による生息数減少、外来種問題などにも触れており、環境教育の場として優れていると感じた。

各施設での野生生物保全の最先端の取り組みに触れ、現場職員の熱意を間近で感じる事が出来た。本研修・施設見学は全て PWS 経費により行われた。



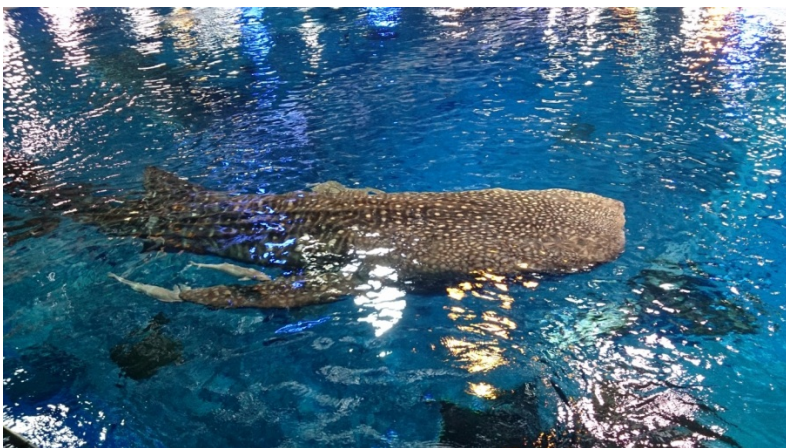
検疫実習の対象となったニホンザル



沖縄こどもの国動物園内の様子



琉球大学瀬底研究施設



沖縄美ら海水族館の見学